

新規分野への展開

Development of New Business Areas

THKは長期経営目標である2010年度連結売上高3,000億円達成にむけて新規分野への展開を積極的に進めてまいります。





THKは連結売上高3,000億円の達成を長期経営目標として掲げております。

長期経営目標の達成に向けて、グローバル展開と新規分野への展開の二つを基本戦略にビジネス領域の拡大を図っています。

ここでは、新規分野への展開に向けた取り組みをご紹介します。

FAI事業部

FAI事業部は自動車分野への業容拡大を目的として1999年に発足しました。現在は主に自動車部品としてリンクボールを完成車メーカーに供給しております。当部門ではリンクボールを戦略製品として完成車メーカーとの取引実績を積み、将来的にはTHKの主力製品であるLMガイドを自動車部品として供給することを目指しております。

現在、リンクボールでは日本、欧州、米国の主要自動車メーカー数社との取引実績がありますが、先ごろ、国内及び欧州の新規メーカーからも受注をいただくなど、取引メーカーや採用車種が着実に増加しております。自動車部品としてのLMガイドは、車椅子用乗降シート等、まだ一部での採用に留まっておりますが、リンクボールで培った取引関係を生かすとともに、製品開発に注力し、採用実績の拡大を目指しています。



FAI事業部

自動車の安全性向上に貢献する自動車用要素部品を製造・販売

現在、自動車メーカーからの需要地生産の要求にお応えすべく、日本、欧州、米国での供給体制を整えております。自動車メーカーからの仕様要求、納期要求は厳しいですが、取引拡大に向けてノウハウを蓄積するために、要求項目の多い注文ほど積極的に取り組んでいます。自動車メーカーとのビジネスの特徴としては、設計段階から量産まで早くても2年、長ければ5、6年といった長い準備期間が必要になることです。ただし量産に入ると短くても3年、長ければ10年という長期に渡って安定的な収益が期待できます。

2004年度の当事業部の売上高は約50億円でした。リンクボールの販売拡大とTHKの主力製品であるLMガイドの自動車への採用率を高めることで、5年後には年間150億円の売上高を目指しております。

ACE事業部

ACE事業部は、「快適さを求め、独創的な生活空間を、技術開発していこう」をコンセプトに2001年に発足し、地震から人命や大切な財産を守る免震・制震装置を製造、販売しております。現在、THKの免震・制震装置は超高層ビルから病院、マンション、社寺、一般住宅にいたるまで、さまざまな建物での採用実績があります。日本で免震・制震装置が登場して約20年になりますが、最近になりその実用性が認知されはじめてきました。現在の日本での免震・制震装置の市場規模は年間150億円程度と推測されます。

現在の免震・制震装置は技術的なデファクトスタンダードが存在していないため、様々な構造が並存しているのが実情です。そのため、免震・制震装置市場には、建設会社や住宅メーカーを

はじめ、ゴムメーカーや油圧機器メーカーなども参入しています。こうした中、THKの主力製品であるLMガイドやボールねじを応用したTHKの免震・制震装置は、高荷重、高負荷といったLMガイドやボールねじの製品特性を生かし、高層建築から一戸建てに至る低層建築にまでに対応することができます。特に従来難しいとされていた低層や軽量建築物の免震技術については、THKは一步先を進んでいるものと自負しています。

免震・制震装置の5年後の年間30億円の売上高を目指し、2004年には岐阜工場内に新工場棟と実験棟を完成させました。今後は、建設会社や住宅メーカー、大手設計事務所などに対して当社の免震技術を理解していただけるように積極的にPRするとともに、一般消費者の方々にも免震に対する理解を深



ACE事業部

地震の脅威から人命や財産を守る免震・制震装置を製造・販売



CAPプロジェクト

THK製品を最終消費財に応用し新市場を開拓

めていただけるよう、セミナー・展示会等を積極的に開催するなど、販売促進に注力してまいります。

CAPプロジェクト

CAPプロジェクトは、THK製品を最終消費財に応用し、新市場を開拓することを目的として2002年に設立されました。現在8名の技術者を擁しており、短期的な製品化を目指した開発と、未来志向の視点に立った開発とを手がけております。既に製品化された例としては、液晶プロジェクターのレンズシフトユニットや自動車のルーフボックスの自動開閉装置などがあります。またアミューズメントマシンの開発にも携わっており、応用分野は多岐に渡っています。お客様である家電メーカーの中には、機械設計が出来る技術者が不足しているところがあるため、CAPプロジェクトが持つ設計技術に関するノウハウ

は高く評価され、重要なパートナーとして厚い信頼を得られていると考えています。まだスタートしたばかりで実績はそれほど多くありませんが、5年後の年間売上高50億円の達成を目指して、より一層開発力の強化に努めてまいります。

MRCセンター

MRCセンターは2000年に設立され、現在では技術者10名の体制で、最先端技術分野における開発を手がけております。特に外科手術支援ロボットの開発では、日本で最先端の開発を行っている大学の研究室との密接な関係を築き、THKにおける産学連携の基礎を作りました。また、大規模病院や大手医療機器メーカーとの協力体制の構築にも注力しております。外科手術支援ロボットは、人体への負担を軽減するとともに、より精密な手術が短時間で

行えるといったメリットがあり、非常に有望な市場であると考えています。今後は外科手術支援ロボットの実用化を進めていくとともに、それに次ぐ柱を構築してまいります。



MRCセンター

外科手術支援ロボットなど最先端技術分野における開発